



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ

2021～2022 年度 高山中央 RC 会長テーマ

「あなたを Happy に」-Make You Happy-



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

◆会長 大原 誠 ◆幹事 下田 徳彦 ◆会報委員長 長瀬 栄二郎 ◆会報担当 住 裕治

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

	会員数	出席会員	出席数	Make-up	出席率
本日 1280 回	55 名	55 名	42 名	—	76.36%
前々回 1278 回	55 名	55 名	46 名	3 名	89.09%

- 点 鐘
- ロータリーソング われらの生業
- 高山中央ロータリークラブ職業倫理基準
- 会長の時間 会長 大原 誠

みなさん、こんにちは。第 1280 回、会長の時間、例会のご挨拶を申し上げます。日本国内のコロナ感染者は大幅に減少しておりますが、海外では先週、南アフリカで新型コロナウイルスの新たな変異株「オミクロン株」が検出され、感染が急増しており、独伊豪オランダでも新変異株確認との情報が伝わりました。世界保健機構 (WHO) は 26 日、最も警戒レベルが高い「懸念される変異株 (VOC)」に分類しました。現段階では不明点も多いが、ワクチンが効きにくく、短時間で世界中に広まったデルタ株より感染力が高い恐れが指摘されています。このニュースを受けまして、金融マーケットでは投資家のリスク回避姿勢が強まり、26 日、日経平均株価が一時 900 円安に迫る場面もあったほか、米国 NY ダウは 905 ドル安と今年最大の下落幅で終えるなど世界的感染拡大懸念が強まりました。当地高山では新規感染が止まっており、一安心的な面もありますが、ワクチン接種済みといったことに慢心することなく、引き続きコロナ感染予防に注意しなければと思います。さて、前回報告しました「国際ロータリー 2630 地区ガバナー杯チャリティゴルフコンペ」が 18 日木曜日に、予定通り三重県の「伊勢カントリークラブ」で開催されました。当クラブの三枝さん、植木さん、岩本さん、今井さんの精鋭 4 名のチームは 26 チーム中 11 位と健闘されました。お聞きしましたところ、高山に帰ってからの楽しい慰労会のこと、プレー中も気になっていた



とのことでした。自社の業務多忙のなか、遠路、三重県伊勢市まで、大変お疲れ様でした。また、昨日は山本家・洲岬家の結婚披露宴に当クラブからも多数出席されてみえましたが、乾杯の際のおさかなを島さんが華を添えられ、また、めでたのご発声を会長エレクト中田学さんが 200 名を超える方々を前に見事大役をお務めになりました。大変ご苦労様でした。さて、先週 20 日の日曜日、「職業奉仕研修セミナー」が「都ホテル岐阜長良川」にて開催され、職業奉仕委員会の岡崎さんと一緒に参加してきました。初めに浦田ガバナーが「人にやさしい資本主義」と題し講演されました。ガバナーご就任の際に「ステーキホルダー資本主義」という昔から日本に通ずる概念を説明報告していますので、詳細はその時の会報をご覧くださいと思います。午後の部では、「特別講師として登壇した「国際ロータリー第 2670 地区 2018-19 年度ガバナーの村井総一郎 氏」について、始めに剣田パストガバナーからの格調高い講師紹介のあと、村井総一郎氏より「職業奉仕は日本のロータリーの心」と題し講演がございました。講演内容として、

I 職業奉仕の捉え方

II ロータリーの根幹としての職業奉仕

III 今の RI の動きと職業奉仕

IV 職業奉仕をどう考える といった 4 つの視点から、「職業奉仕」と「社会奉仕」との違いから話が始まり、今のロータリーに必要なことは、職業奉仕の正しい理解であること。その理解すべきこととして、ロータリーの奉仕は、奉仕の理念の実践であり、どの奉仕が一番という事ではなく、奉仕の心すなわち思いやりの心は皆が持っているものであり、それを意識するかしないか、実際にしめすかどうかである。と説かれました。講演をお聞きし、私自身として「職業奉仕」を理解し、どのように実践していくかを考えましたが、講演のなかで、これだと思ったフレーズが「奉仕の心をもって、あなたの

職業を営みなさい」でした。日常の仕事に向きあう中で、「奉仕の心をもって、あなたの職業を営みなさい」を常に意識していけたらと思います。

● 幹事報告 幹事 下田 徳彦

◎RI 本部より

・ザ・ロータリアン誌

◎国際ロータリー第 2630 地区ガバナー事務所より

・「女性会議」参加お礼

<高山市青少年育成会議より>

・「第 38 回家族写真展」

「第 30 回家族の日図画展」出役の依頼

<会報>

・美濃加茂 RC

● <IDM 報告>

研修委員会 委員長：高原 清人



「IDM」にご参加いただいた皆様には感謝申し上げます。私は刃田さんのおはなしされたことについて触れてみようと思います。2 回目のガバナーの大役を終えた刃田さんには、「今だから言えるロータリーの秘密」と題してお話ししていただきました。内容は概ね「RI と日本のロータリーとの乖離」について話されました。RI は柔軟と寛容に舵を切り会員獲得のため、様々な規定を緩和しここ数年運営してきた。会員資格で言えば、主婦でも学生でも志があれば誰もが入会しやすくなり、会員拡大につながると思ったのであろう。それに加え、財団への寄附額が増えるとの思惑もあったのかもしれない。ところがここ数年、会員は拡大するどころか減少しているのが現状です。アメリカでの老舗クラブの消滅、我々日本でも会員の減少には苦慮しているところですが、活動内容と言え、財団主導の奉仕活動が主流となり、職業奉仕などは化石と化し、より一層社会奉仕団体へ拍車がかかる今日現在です。そこで我々高山中央ロータリークラブとしての方向性は如何にすべきかと言うことですが、今一度ロータリーの目的、二つのモットー、四つのテストを信条に、職業奉仕の理念を見つめ直し、我々らしく活動に邁進していくことが寛容と考えるものであります。最後に渡会 RC 会員であった、

故辻岡福一氏の言葉を引用させていただき「IDM」の報告といたします。

私はロータリークラブに所属している。

ロータリークラブとは、「世界的な友好と奉仕を志す人々の集いであって、会員は社会生活の幸福の基をなすものは「奉仕の理想」にあるということを経験として、職業を異にした良識を待った実業人及び専門職業人をその会員として夫々の地区にロータリークラブを結成し奉仕の活動を行っている。ロータリーでは他人に対する思いやりが奉仕の基礎であり、且つ、又自己を超我したサービス（超我の奉仕）に徹する精神とが相俟ってロータリーの奉仕の理想が形成されているのである。このロータリーがなぜ広く万人の共鳴を得ているかと言えば、それは会員一人一人がその友好関係を広めて社会改善の事業に参加し、職業生活の道徳的水準を昂め（地域社会及び同業の間で尊敬される行動をする）且つ国際間の理解と親善を深め、もって世界平和の樹立を促進する実践的手段を追求しているからである。」

研修委員会 副委員長：清水 幸平



11 月 26 日、銀風様にて研修委員会担当の IDM が開催されました。私は、IDM の意義について話す機会をいただきました。高山中央 RC では、クラブ発足当初より毎年のようにロータリー情報委員会が IDM を開催し、新入会員にロータリー情報を提供し、また会員同士の親睦を深める機会を作ってきました。IDM は、1935 年に、新入会員にロータリー情報を提供するために始められたものである。その後、シカゴロータリークラブがこれを取り入れて、大きな成果を収めたことから、世界的に広まった。通称「炉辺会合」と言われた集いは、名前に「座談会」「家庭集会」(Informal Meeting, Home Meeting) などの変遷があり、現行では、この言葉そのものが「手続き要覧」には見られなくなっている。実態として、クラブによって様々な名称で集会が行われている。炉辺会合は新入会員の同化、および会員間の親睦と情報交換、そしてロータリーを推進するために、会員の自宅その他に少人数が集まって和やかに自由討論する非公式な会合である。コロナの影響でミーティングや親睦会が開きにくい状況にあり、クラブ運営もままならない今日ですが、機会を作ってロータリーの活性化に努めたいと思います。

IDM に参加して

水口 邦博



IDM にて 1 時間程度、いろいろなお話を聞かせていただきました。とは言え、その後の懇親会にて私の頭の中は、諸先輩方とのトークで全て書き換わり、あまり思い出せない状況でございます。申し訳ございません。そんな中で一昨日、自分なりに小さな奉仕活動を実践してみました。とある方から「何か頼む」と 30 分程度の作業を行ったのですが、日頃の感謝も込めて無償で奉仕させていただきました。しかしその後、ダンボールが 1 箱。なんと中にはたくさんの食品が詰め込まれておりました。意味は違うかもしれませんが、ロータリーが掲げる奉仕に少し、近付けたような気がしました。今後もこのような事業の機会、また多くの懇親会を楽しみにしております。

IDM 開催について

葛谷 嘉久



皆さんこんにちは。内科の葛谷です。先週の金曜日に IDM が開催され、新入会員にロータリーの活動、事業、意義について懇親会も兼ねて開催されたので、感想とご報告をさせていただきます。高山中央ロータリークラブにおいて力を入れている事業として、出前講座の歴史と内容がありました。私は日枝中学校の校医を 10 年近くおこなっていますが、よく、校長先生、教頭先生、各職員の方や歯科、薬剤師の方との学校保健委員会という会議があります。最近ではコロナの対応についての事が多いですが、10 月の時点では子供たちは給食時マスク会食はもちろんの事、会話の制限や時間の制限をされ、決して楽しいとは思えない窮屈な学校生活をしています。この 10 年近くの問題としても SNS の問題があります。学校内ではおとなしい生徒が増え、一見すると問題がないような子供が学校外で SNS を通して人間関係のこじれや依存により、知らない間に不登校や不登校気味になると聞いております。このように、今の時代だからこそ、目に見え

る形での高山中央ロータリークラブの力を入れている出前講座は非常に必要ではないかと感じました。

また、ロータリーの活動の歴史、意義についての説明もありました。私がロータリーに入会して、よく、先義後利をよく聞きます。そもそも、私達の医療の世界は先義後利の世界でして、システムもそうです。毎月、診療報酬というレセプトを基金に提出して、過剰診療や不正がないか審査して 2 カ月遅れで収入が入ってきます。まずは患者さんの命を救ったり、予防に努めたりが優先なのですが、最近、この先義後利について思うこともありました。

コロナ禍において、私たち医療側は先義があるがために、義が正義になり、正義を過剰に振り回してないかと思う事も多いです。規則をして、強く指導したりと社会全体を見渡すことに少し欠けている部分もあるのではと思ったりします。バランスよく先義後利の理念を行っていきたいと思います。

さて、この 1 年はコロナワクチン接種やコロナの発熱外来開設により大変でしたが、高山市の市民の健康、命を守るために頑張ってきました。そろそろ、分配の果実を街に還元したいのですが、私たちは後利であるがゆえに、いまだに追加補助金はいっていません。早く、入ってきて、皆さんとともに、分配の果実を放出したいものです。(もうしてありますが) (笑) 懇親会本当に楽しかったです。

新たな変異株も出現しましたが、その株に対するワクチンを製造する可能性も、ファイザーは言っていますし、特効薬もいずれ出ます。状況は去年より良くなっていますので、またこのような会を開催してもらえたらと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

IDM に参加して

西 美紀



コロナ禍に慣れきっている昨今、研修会という事で、初参加、具体的内容も把握しないままの参加でしたが、1 時間の研修でロータリーについて学び、その後普通の和気あいあいの宴会モードになり、楽しく過ごさせていただきました。先のお二人の方のスピーチを踏まえて、私は研修内容についてお話をさせていただきます。まず、IDM とは、Informal Discussion meeting の略で、新入会員にロータリー情報を伝えるための研修会であること、以前は家庭に新入会員を招きアットホームな雰囲気で行っていたが、会長夫人の負担が大きいため、会場

で行う事になったそうです。

次に地区補助金を活用した事業について 地区補助金は、会員の寄付金額により、補助金の給付額が決められており、当クラブは 5000 ドルの補助金給付に該当し、それを活用した事業を様々行ってきた事を学びました。基本的に夏休みを利用した親子体験活動で、春慶塗のマイ箸作り、木製あんどん作りなどのものづくり体験の他、ふれあいキャンプなどを行ってきたそうです。コロナ禍では開催が難しいため、不登校や登校拒否、引きこもり児童生徒たちへの学力向上支援事業として iPad の寄附やコロナ対策を呼びかける看板の寄贈など、青少年を対象とした事業を行ってきたそうです。

青少年を対象とした事業を行ってきたそうです。

青少年を対象とした事業はこの他に、毎年行ってきた、座について学びました。2010 年青少年を対象とした継続的に行う事業、キャリア教育の重要性がクローズアップされましたが、何をどうしてよいのか？ということで、先進的にキャリア教育を行っていた三重県鈴鹿市を訪問して学び、当地域で行う方法を模索し、小規模校から出前講座を始めたそうです。その後この活動を高山市の全ロータリークラブに広め、ライオンズクラブ、ソロプチミストなど職業を基とする各団体の協力を仰ぎ、今や高山市の全 12 中学校に活動を広げた事は、とても意義深く、子どもたちのためになる事業であると、感銘を受けました。当クラブが始め、拡大してきた事業である事にも、皆様の熱い思いが伝わる活動だと思いました。

最後に 剣田バスターガバナーから、ロータリーの理念について学びました。まず、ロータリーの基本理念とは、相手のために尽くすこと…これは、聖書の黄金律にも通じることである。1930 年まで、職業奉仕とは、個人奉仕であったこと。その後、会員増強を呼びかけるが、中々会員拡大には限界があり、その後 1960 年代には、WCS という世界社会奉仕に変わっていったそうです。それが意味する事は、個人奉仕・I serve から組織としての奉仕 We serve にかわっていった事です。それにより、ロータリーの制限を緩和して、ローターアクトなど、世界のボランティア組織がロータリー会員のとする事が可能となったそうです。それにより、奉仕の主体が個人から組織へ、組織から地区へ、地区から RI へと変わっていったことなどについて話されました。また、ロータリーの活動とは、人生の目的であり、生き様である事。他社への奉仕をする事により、魂を磨き、それが自分の成長につながる事。

お話が深すぎて私には漠然としたイメージが湧いたぐらいでしたが、今後も学びながら、奉仕による自分磨きをして行けたらと思います。貴重なお話をたくさん聞かせていただき、ありがとうございました。

<ニコニコBOX>

先日は IDM 開催、ありがとうございました。

水口 邦博

誕生日と結婚記念日にはクラブからお祝いを頂きありがとうございます。毎年思う事ですが、誕生日と結婚式を一緒にしたことを後悔しております。

高原 清人

寒い毎日、雪もちらつき始めました。身体には充分注意したいものです。そんな中、昨日、テニスとゴルフで長い付き合いの昭和 24 年生まれの友人が亡くなりました。元気な方でしたので信じられません。みんな、いつ何が起こるか判らないと思うととてもつらいです。

平林 英一